



発行
(株)インターメディカル

113-0033
東京都文京区本郷3-19-4
本郷大関ビル6階
(03)5802-5801
<http://www.intermed.co.jp/>

学習目標より明確化された 管理栄養士国試新ガイドライン 今年度から始動

平成24年3月から管理栄養士国家試験は8年ぶりに改定された新ガイドライン(GL)に沿って実施される。旧GLと比べ科目間の役割分担が整理されて全体に引き締まり、新事項も適切に盛り込まれ目鼻立ちがくっきりとした印象。大筋、管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラムの方向性に沿って、学習目標が明確にされた。「社会」「人体」「食べ物」の基礎3科目で人間の健康(疾病)と社会・環境、食べ物との関係を問い、その他専門科目で栄養の意義、個人・集団、地域を対象とした栄養管理の知識が問われることは従来通りだが、新GLでは管理栄養士の基本知識として健康に関する法・制度が整理され、管理栄養士が行う地域保健活動の法的根拠を明確にした。

被災地の健康と栄養を守れ 日本栄養士協会が管理栄養士派遣

3月11日に発生した東日本大震災の被災

者支援を、日本栄養士協会が全国の管理栄養士・栄養士に呼びかけている。今回の派遣は、初の試みで、活動拠点は気仙沼となる。物資のない中で長引く避難所生活により生じている被災住民の栄養問題を巡回栄養相談等により支援する。

業務の柱は、①地元の医療チームと連携しながらの在宅訪問、②避難所の食事調整、③病院・施設のサポートの3つ。特殊食品を必要とする人など、栄養のプロが必要とされる局面は多い。

数人単位で被災地に入るボランティアへの志願者は多いが、交通機関の復旧の遅れ等で被災1か月余の現地入りは難しい。情報把握も困難な中で支援は続いている。

食品と水に含まれる放射線 食品安全委員会などが 安全性について情報提供

福島原発の事故で放射線量と健康障害に関する不安が続く。風評被害を正すため、食品安全委員会や学会等が情報発信している。

被災により懸念されるのは甲状腺がんの発症率増加であるが、発症は50ミリシーベルト(mSv)以上の被ばく量で起きると、乳幼児や若年者ではリスクが高いが40歳以上では発症率が低いことが発表されている。

人は誰も年平均2.4mSvの放射線を浴びて生活しており、宇宙線や大地からの外

部被ばく0.87を除く内部被ばくとして、1.256mSvが吸入に、0.29mSvが食物等に由来する(日本疫学会)。体内に取り込まれた放射性物質は代謝や排泄などで体外に排出される。

食品中の放射線量については暫定規制値が定められ、その値を超えた食品は食品衛生法第6条第2項に基づき市場に出回らない。今回、基準値を上回る放射線が検出された一部のホウレンソウ、小松菜、シイタケなどに当分の間出荷制限が課された。

各食品の暫定規制値の単位は、1個の原子核が崩壊して1秒間に放射能の強さを表すベクレル(Bq)で、放射線を受けた人体への影響は、Bqに核放射性物質ごとの係数を乗じたシーベルト(Sv)で表される。

人体における暫定規制値は、放射線の種類に基づき各臓器の吸収線量を補正して得られる「等価線量」をさらに補正・合計した「実効線量」で全身の健康影響を評価する。

食品安全委員会は、WHO等の国際機関の研究結果を参考に安全を見込んで放射性ヨウ素(甲状腺で30%を吸収)の暫定規制値を甲状腺等価線量で年間50mSv(実効線量2mSv/年)、放射性セシウムで実効線量5mSv/年と発表している。

日本産婦人科学会では、被ばくによる母乳および乳幼児への悪影響はないとしたうえで、妊娠中もしくは授乳中で50mSv以上の被ばくを受けた女性が甲状腺がん発症を予防するために服用するヨウ化カリウム錠が、かえって胎児の甲状腺機能低下症につながるおそれも示唆している。

かんのいんぷおめろしよん

受験生のみならず、先生方、地震の影響の中、国試お疲れ様でした。インターメディカルでは、合格者の方にプレゼント付アンケートへのご参加をお願いしております。詳細は後日「かんもし」のサイトで発表。

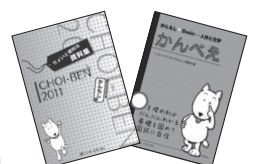
第26回管理栄養士国家試験対策

2012年 管理栄養士 国家試験 全国統一模擬試験「かんもし」

KANRIEIYOSHI
MOGI SHIKEN 2012

- 第1回 2011年5月1日～9月30日
- 第2回 2011年10月18日～10月30日
- 第3回 2012年1月24日～2月12日

お申込
受付中



第2回・3回の連続受験で
どちらか差し上げます



ホームページで
国試関連資料、
保健統計資料、
新ガイドラインを
公開中!

click!



かんもし 検索

<http://www.intermed.co.jp/>

連絡 かわら版への要望・感想。今月のキーワードは「ボランティア」。○に入る言葉と所属・氏名・住所等を書いて @intermed.co.jp まで。もちろん豪華粗品進呈。